

## 中期計画（素案）に対する評価委員からのご意見について

赤字は案を修正する部分

評価委員からの意見要旨	ご意見への対応
(ア) 第2-1-(1) 広大な市域を支える要としての活動（中期計画案2ページ） 第2-1-(4) 政策医療（中期計画案3ページ）	
① 少子高齢化に向かう中で、医療費の問題は大きな問題。病院は治療するところだが、発想を変え、治療にかからないようにするため、高齢者を含めて健康管理のための教室を開いたらどうか。	第2-1-(1)「広大な市域を支える要としての活動」において、「本市の都市部及び中山間地において、「静岡市民『からだ』の学校」を開催し、市民への医療情報を発信します。」とするとともに、第2-1-(4)「政策医療」の③において、「糖尿病、動脈硬化、高血圧症などの生活習慣病について、・・・講習会などの予防に係る啓発活動も行います。」としており、病気やその予防を含めた対応に係る市民の理解を促進して、罹患防止に繋げてまいります。
② これからの病院のあり方として、人が重病にならずに「ぴんぴんころり」となれるような施策を考えたらどうか。	
③ 最近「タニタ食堂」が話題になっているように、人は食や健康に興味を持ち、健康に長く生きていくことを真剣に考えるようになってきた。地方独立行政法人としてスタートするに当たり、他のところにはない「すごい」と言いわせるようなものがあったもよいのではないか。	
(イ) 第2-1-(2) 救急医療（中期計画案2ページ）	
① 救急について、一人でもいいから救急の専門ドクターを入れ、そこに現在いる医師が協力するようにしたらどうか。救急科の看板を掲げたら若い医師が集まってくるのではないか。	第2-1-(2)「救急医療」の文中、「また、高度な救急医療提供のために、新たに「救急科」の設置を目指します。」としており、ご意見の実現に向けて取り組んでまいります。
(ウ) 第2-2-(3) 医療職の確保、知識の取得、技術の向上（中期計画案5ページ）	
① 病院が安定的に経営されるためには、医師等の確保が必要。研修医を集めて人員に余裕がある体制にするべき。初期研修医は2年間だが、2年終了後にいなくなる人が結構いる。研修医がずっと残ってくれるような中身のある静岡病院になればよい。	第2-2-(3)「医療職の確保、知識の取得、技術の向上」の「b」において、「医師、看護師、薬剤師、医療技術者等について、院内研修の充実や研究・研修会への参加を促進するとともに、専門資格取得のため、院外の教育研修等への参加を支援します。」としており、医師が臨床研修終了後も本院において技術等を向上させることができるよう支援してまいります。 また、「救急医療」や「高度医療」の充実等により、患者だけでなく医師にとっても魅力ある病院にしてまいります。

評価委員からの意見要旨	ご意見への対応
<b>(工) 第2-4-(2) 患者ニーズに応じた医療・病院環境の提供（中期計画案7ページ）</b>	
<p>① 病院のあり方として、体が非常に悪い状態でなくても気軽に健康相談に行けるような環境を整えてほしい。</p>	<p>患者の症状に合った適切な治療や、限りある医療資源の有効活用のため、各医療機関の役割分担と連携による医療の提供が進められています。具体的には、日常的な健康相談や医療の提供は診療所などでのかかりつけ医が対応し、より高度で専門的な治療が必要な場合に、それに対応できる病院で医療を提供するものです。</p>
<p>② 5ページの第2. 4「利用しやすく快適な病院づくり」のところで、b、c、dの記述は数値がなく具体性がない。例えば、bについてもっと具体的なものがあれば挙げればよい。堺市民病院の事例ではもっと具体的に記述してある。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、第2-4-(2)「患者ニーズに応じた医療・病院環境の提供」の「b」の文中、「患者にとって利用しやすい病院環境を確保するため、待ち時間調査を実施し、快適な待ち時間の過ごし方などについて、総合的な待ち時間対策を検討・実施します」を、「患者にとって利用しやすい病院環境を確保するため、待ち時間調査を実施し、<b>待ち時間を短縮できる方策を検討するとともに、待ち時間をなるべく有意義に過ごしてもらえよう、診察待ちの患者さんに対し体操指導を行うなど、改善に向けた取り組みを実施します。</b>」とし、新たに「e」として、「市民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが患者の立場に立った接遇の実践ができるよう病院の全職員を対象とした接遇研修を<b>毎年実施します。</b>」といたします。また、数値については、実績や目標についての数値化が可能で、計画の内容を的確に表現できる場合に示しています。</p>
<b>(オ) 第2-5-(2) 医療・保健・福祉・介護関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流（中期計画案8ページ）</b>	
<p>① 他機関との連携について、病病連携、病診連携だけでは足りない。今後人口減少が進む中で、公的病院間の連帯が必要であり、このことを位置付けるべき。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、第2-5-(2)「医療・保健・福祉・介護関係機関との連携」の「b」の文中、「他病院と互いに協力・補完しあい、患者のその時々の病態にあった入院治療を効率的に提供できるよう、病病連携の推進に努力します。」を、「他病院と互いに協力・補完しあい、<b>疾患ごとの連携の強化や、患者のその時々の病態にあった入院治療の効率的な提供など、病病連携の推進に努めるとともに、静岡市公的病院協議会における情報交換等により、他の市内公的病院との連携に取り組んでまいります。</b>」といたします。</p>

評価委員からの意見要旨	ご意見への対応
(カ) 第3-1-(2) 職員のやりがいと満足度の向上 (中期計画案8ページ)	
<p>① 概要版に記述のある「病院を進化させるのはひとだと思ふ」はいいキャッチだと思ふ。このキャッチを実行していくためには人のインフラを整えることが必要。一人ひとりの行動に落とすところまでどうするか緻密にやっていく必要がある。この点を多く盛り込んだものを次回に期待したい。</p>	<p>第3-1-(2)「職員のやりがいと満足度の向上」において、「職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進させるため、院内研修の充実や、職員の研修会等への参加支援を行います」としており、職員の自らを高める取組を促進してまいります。</p> <p>また、新たに項を設け、「職員の経営参画意識を高め、よりよい病院づくりに向けた取組を推進するため、病院の運営方針や課題についての職員間での情報共有や課題改善を検討するための会議を開催するとともに、課題改善の奨励に取り組ま</p> <p>す。」といたします。</p>
<p>② 優秀な医者を確保するためには、それなりの処遇を与えることが必要。</p>	<p>優秀な医師の確保策については、引き続き検討してまいります。</p>
(キ) その他	
<p>① 中期計画事例集に掲載されている事例は、構成病院数、計画期間等が異なっているので、このままでは比較ができない。整理してほしい。</p>	<p>整理したものを、別添のとおり提出いたします。</p> <p>※「参考資料3-5 中期計画(第1期)事例表&lt;政令指定都市&gt;」参照</p>